



奈良女子大学同窓会佐保会

2018年7月20日

佐保会滋賀支部

滋賀支部だより

暑い日が続きますが、皆さまお元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。
今回の支部だよりでは総会・懇親会の報告、おうみ佐保塾の報告、《こんにちは☆
支部会員さん》、お知らせを掲載しております。
第20回おうみ佐保塾のご案内、佐保塾史跡めぐりのご案内を同封しています。
皆様のご参加お待ちしております。

2018年度滋賀支部総会・講演会

日時：2018年6月10日（日）10時30分～14時30分

場所：琵琶湖ホテル5階「萩」

参加者：総会 31名 講演会 32名 懇親会 32名

総会に先立ちましてこの1年の間に逝去された方へ黙とうを捧げました。総会では、提案しました議事を全て承認いただきました。規約の改正により役員任期が2年間となりました。

（一社）佐保会に以下の役員を推薦いただきました。

監事：古市久子（S42 文教）、理事：浅野純子（S50 理化）、代議員：松本匡代（S60 理物）

総会の後は古市久子氏に「紙と手と歌と～脳と遊んで生活を豊かに楽しく～」と題して講演をしていただきました。ご指導いただいた折り紙でのバラづくりには皆さん四苦八苦しておられました。講演後の懇親会では楽しく近況報告をしていただきました。



講演会の感想

ごくたまに鶴を折る以外、折り紙とはほぼ無縁に過ごしてきた数十年。もともと手先が不器用だし、大丈夫かしらと気にしながら迎えた記念講演の時間。古市久子氏のお優しい笑顔に、緊張が一気にほぐれた。研究者として、また大学人としての目覚ましい業績と職歴をお持ちの古市氏であるが、行政方面



のお仕事、ご家庭人としての責務も種々果たしてこられたご様子。その故であろうか、ご研究を一般の人々の為に生かそうとすることと、一挙両得・一石二鳥、いや三鳥を狙う主婦感覚に瞠目する。

認知症予防に良いとされるデュアルタスク（違う動作を同時に行う）を楽しく行う、ということで、本日のメインである折り紙のバラ作り、スタート。「難しい！ここどうやるの？」という楽しそうな声がそここで上がる。皆様をお迎えする立場の役員としては、アシスタント役を務められるほどの腕前であるべきだったと反省しながらも、ご出席の皆さんとの距離が一気に縮まる良い時間をいただいた。私のバラは田螺のような妙な形になってしまったが、脳内は爽快、このタスクの目的は十二

分に果たせたと思う。

最後に、「ふるさと」を歌いながら左右の手を一動作ずらしつつ同時に動かすというデュアルタスクに挑戦。いつのまにか左右同じ動作になってしまっていることに愕然。帰宅してからも練習し、やっと出来た時の達成感といったら。こうして楽しく心身が活性化され、与えられた命を長く有効に使うことが出来たら、百利あって一害も無く、八方良しである。ご指導いただいたことを今後も続けて行くと共に、周囲にも伝えていきたいと思う。

(高原)

第19回おうみ佐保塾

「農あるくらしの魅力 ～一粒の実がごはんになるまで～」



おうみ佐保塾、今回は、6月29日(金)、高田正子さん(S42 家住)を講師に迎え、草津市立まちづくりセンターにて開催、早朝の雨で足もとの良くない中、34名のご参加を賜りました。

手をかけてこそ「自然」

都会人は、田舎の田園風景に、「ああ、自然だ！」と感動する。だが、果たしてそれは本当の自然の姿なのだろうか。

植物は栽培されて作物となった。当然、栽培する側の人間にとって都合の良いものが選ばれる。他は淘汰され、本来持っていた生き残る力が消失あるいは軟弱化し、人間の手を借りなければ生きてゆけなくなってしまった。農業の始まりだ。人間は作物の世話をする一方で自然に手を加え、作物としての植物が育ちやすいものに作り替えた。都会人が見て感動する「自然」は、農業に携わる人々が作り出した「自然」なのだ。

一粒の実がごはんになるまで

まずは充実のよい種籾を選ぶ。塩水選の後、温湯消毒。10日ほど水に漬けて白い幼芽が少し見える状態まで吸水させた籾を育苗箱へ撒く。

苗半作、苗作りが出来たら米作りの半分は出来たも同然。そう言われる苗作りを、高田さんは子育てに例える。出芽は乳児期、予備緑化期は幼児期、硬化期は少年期だ。出芽期は特に温度・湿度の管理をする。予備緑化の頃には種子根の他6本の冠根が伸びだす。まだ養分は胚乳に頼っているが、この根を十分に機能させることが重要。硬化期。やがて緑の葉が展開してくると胚乳に依存しつつも自力で光合成ができるようになる。水はその日の天気を考えながら午前中にたっぷり灌水し、必要な水は自力で得るように仕向ける。根を伸ばし、光合成により植物として生きていくように。そして田植え。親としてできることは全てやった、頑張れ！と送り出す。その後も何かと気懸りだが、自然が穏やであれと祈るしかない。

苗が新しい葉を出し約20本の莖数になったところで水を抜く。すると根は水を求めて下に伸び倒伏に

強くなる。7月は節間が急に伸び出す幼穂形成期、肥効と倒伏の駆け引きがポイント。8月にかけて出穂期。穂の中で米粒が育まれる酷暑の季節、昼夜の温度差は品質に影響大だ。穂が実り愈々収穫。

こうして一粒の実は計算の上では子供茶わんに軽く一杯のごはんとなる。

米を無駄にしたら目が潰れる。米作りの手間暇愛情を考えれば領ける。

米作りに学ぶ

手間をかけることから勤勉性。共同作業から和。益鳥、益虫、その他周りの色々な生き物との共生、人知を超えるものへの畏敬の念、謙虚さ。全て日本人の特性だ。米作りは、日本人を作ったと言える。今、米離れの時代、日本人としての特性まで失われなければいいのだが。 (松本)

《こんにちは☆支部会員さん》 vol.③

三回目を迎えました本欄ですが、特別企画として「おうみ佐保塾」とタイアップ、講師をお務めいただいています高田正子さん(S42家住)の田畑の見学及び実地体験に東近江市までお邪魔致しました。同市在住で農業経験のある小南葉子さん(S57家住)、地元のお酒の蔵元さんである中村晃子さん(H4理生)にご援助いただきつつ、農業完全素人の高原早苗(S60文社)が、今まで外から拝見するのみだった田んぼの中に生まれて初めて入らせていただきました。

すいすいと田の奥へ分け入る高田さんの後を同様に付いて行こうとしたら、足がグググと泥の中へ沈みこむ。え?こんなに深いのか。「足で探ってここと思う所に体重をかけて」とのご指導で泥の中を探してみると、あるある沈まないところが。てっきり均一な平面であると思っていた田の底が不均一であることを知る。「稲の高さが各々違うでしょ?」均一な高さに生えそろうている様に見える青々と繁った稲たちが、こんなに個性に溢れていたとは。「色も濃淡があるの、分かる?」今までてっきり光の具合で田の緑は種々の様相を呈しているのだろう、などと思っていたが、そうではないと知る。「手で肥料をやる時に、この高さや色の具合を見て、施肥すべきところとしない所を判断し、全て均一になるように努めるのよ。」手で肥料を撒く人の姿を今まで何度も拝見しながら、そんな気配りであろうとは夢にも思わなかった私。何枚もある広い田の全部に細かい配慮をしつつ施肥して歩く脳と足の仕事量を想像していたら、うっ、足が抜けない…とにかく稲を倒してはいけないと焦り、畦道から伸ばしてくれた小南さんの手にすがって田から上がってきた。筋力を付けないと草取りのお手伝いさえ出来ないと痛感した。

かつて母乳育児の講習を受けた時に「稲の穂で目を突いた時に母乳を付けたら治ると言われるほど」と習ったことを思い出したのだが、それは今の時期の草取りに多い出来事かも、とのこと。確かに、身をかがめると稲の硬く鋭い葉先が、私のメガネのレンズに当たる。田の神様はこのせいで目が見えないとか。幾人のご苦労があったことかと胸が痛んだ。

あと十日ほどで出穂する貴重な稲を切り開かせていただいた(写真参照)。既に穂の形が出来ていることに感動。一見モミの一粒に見える部分が、このあと開花と同時に自家受粉し、米になる。一粒の米を撒いて、そこから二百粒とれたら上等であるとのこと。粒粒辛苦という語を噛みしめる。そして此度の豪雨被災地の土石流が脳裏をよぎる。これ以上の天災が来ないことを祈るばかりである。



2018年度新入会員の紹介

棚橋 輝蘭南	文	言語文化学科日本アジア言語文化学コース	大津市
森本 陽葉	文	言語文化学科日本アジア言語文化学コース	守山市
鈴井 真麗	文	言語文化学科ヨーロッパアメリカ言語文化学コース	大津市
犬塚 ま子	理	化学生命環境学科環境科学コース	湖南市
青木 佑里那	生還	生活環境学科 住環境学科	大津市
田中 美優	生還	生活環境学科 住環境学科	大津市
刈谷 梓	生還	生活環境学科 生活文化学科	大津市

お悔み 心よりご冥福をお祈りいたします。

井上多鶴子様(S33 家政学部被服学科卒)2017年11月ご逝去

お誘い

前回の支部だよりで見事なアップリケをご披露くださった忽那靖さんが、ご自宅(草津市)で作品制作の手ほどきをしてくださるそうです。ご希望の方は支部長までご連絡ください。お待ちしております。

本部や他支部の行事へ参加してみませんか

佐保会本部や他支部(兵庫・大阪・京都・奈良)では多彩な行事を行っています。思いがけない方との再会もあるかもしれません。詳しくは佐保会ホームページをご覧ください。「佐保会」でご検索ください。

お願い

- 皆様の作品をお寄せください。ホームページ・支部だよりに掲載させていただきます。
- 会員の皆様の受賞の情報などご存知でしたらお知らせください。広くご紹介したいと思います。投稿・情報のご提供は支部長までお願いします。
- 2018年度の会費未納の方には払込取扱票を同封しています。できるだけゆうちょ銀行のATMで納入をお願いします。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方はATMを利用して口座間振替(月3回まで手数料無料)のご利用をお願いいたします。既に払い込み済みの場合はご容赦ください。
- 住所・電話番号などを変更された方は支部長までご連絡ください。
- 滋賀支部ではホームページを開設しています。「佐保会滋賀支部」でご検索ください。
- 支部の行事をお手伝いしてくださる方はいらっしゃいませんか。支部長までご連絡ください。
- 支部長への連絡先は封筒に記載してあります。ホームページからもご連絡いただけます。

新役員

支部長	浅野 純子 (S50 理化)	会計	小野 薫 (S54 家食)
会計監査	和田 隆子 (S49 理物)	塚田 多佳子 (S51 文教)	
地区委員	山仲 幸 (S53 家食)	小南 葉子 (S57 家住)	岡城 雅代 (S59 家被)
	荒木 美紀 (S59 家被)	山岡 弘子 (S59 家被)	高原 早苗 (S60 文社)
	松本 匡代 (S60 理物)		



2年間よろしくお願いたします。